

栄養素の脂質に抗体

抗リン脂質抗体症候群

体に必要な栄養素の一つに脂質がある。中でも細胞になくてはならないのがリン脂質だが、この脂質に抗体ができる。体にさまざまな異常をもたらす。抗リン脂質抗体症候群と呼ばれる病気だ。頭や心臓などに血栓を作り、妊婦はそのための流産を起こすことがある。膠原(こうげん)病患者に多い症状だが、この病気と関係のない発症例もあり、新たな自己免疫疾患として治療法などの研究が進められている。



小池隆夫教授

脂質は糖、タンパクとともに三大栄養素の一つ。いろいろな種類があるが、中でもエネルギー源で、おなかの中にたまりすぎると脂肪の原因になる中性脂肪はよく知られている。リン脂質もその仲間。体中の細胞膜を作る大切な役

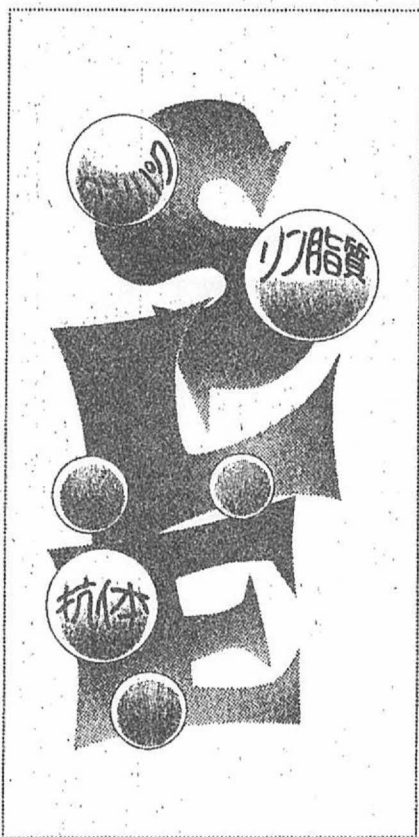
目を持ち、主に肝臓で作られ全身に送られている。ところが細胞に不可欠なこの脂質に、原因は不明だが抗体ができることがある。体がリン脂質を異物としてとらえてしまうわけだ。そして抗体陽性者に脳血管の血栓症や女性では妊娠するたびに流産を繰り返す習慣流産などの症状が多いことから、これらの症

血栓症や習慣流産に

原因不明、若い女性に多い

目に、SLEの患者では三割以上で、その多くは抗体が陽性だ。しかし、最近「SLEと関係なく突然、症状が出たり、若年性の血管障害を起すこともある」という。小池教授は、足の静脈血栓症を繰り返す小学生在が、中学生になって脳梗塞(こうそく)を発生した例を経験している。こうなると血液凝固を止める作用が働かなくなる。血栓ができるのはそのため。小池教授はこの一連の反応を突き止める。抗体がなぜできるか、根本

同症候群は自己免疫疾患の代表的な膠原病の一つ全身性エリテマトーデス(SLE)患者に多いのが特徴。SLEのほとんどは若い女性で、血栓症を伴うことが知られている。



原因が分かっているないので、決め手になる治療法はない。血栓症が主な症状なので、血液凝固作用を抑える薬を服用したり、外科手術を行うのが普通だ。女性ではステロイドホルモンで抗体値を下げ、妊娠出産を可能にする方法も試みられている。いずれにしても同症候群が注目されてからわずか数年

ペースメーカーや心臓病の質問どうぞ 25日に懇話会 北海道心臓病とペースメーカー友の会(石川美代表は二十五日午後二時から)かである。2・7(札幌市中央区北二西七)六階和室、「ホームドクター」医療相談懇話会「多聴く。心臓病やペースメーカーに

場を直接申し込み。参加費は会員無料、一般三百円。「医師から良い説明を受ける要領」学ぼう 24日に「患者塾」 医療人権センターCOML 札幌は第三回患者塾を二十四日午後六時からかである。2・7(札幌市中央区北二西七)で開く。テーマは「医師からきちんとした説明を受けるには」。そのためにまず患者が自分の具合を伝えなければならぬが、その要領を話し合う。参加費五百円。問い合わせはCOML札幌会011-8885288まで。